

令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 花尾 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語、数学、理科)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、数学、理科)

教科に関する調査(国語、数学、理科)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査

○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

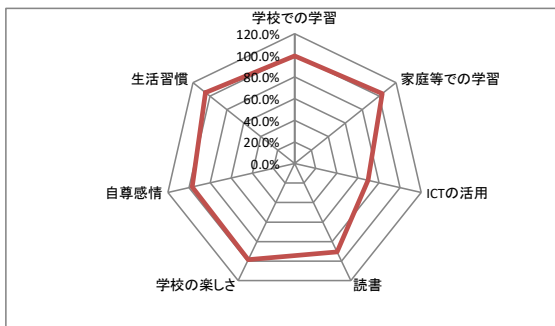
(1) 全国・本市の学力調査(国語、数学、理科)の結果

本年度の結果	国語		数学		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	6.6	47	9.8	47
全国	9.7	69	7.2	51	10.4	49

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	・全ての領域で全国平均を上回っているが、記述式の問題で無解答率が高いなどの課題がある。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	自分の考えが分かりやすく伝わるように、根拠を明確にして書くことができる生徒が多い。	
	努力が必要な問題	表現技法や漢字などの知識や、自分の考えについて表現を工夫したり場面と描写などを結び付けて解釈したりしながら記述することに課題がある。	
数学	全体的な傾向や特徴など	・全ての領域で全国平均を上回っているが、記述式の問題で無解答率が高いなど、数学的に説明することに課題がある。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる。 与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる。	
	努力が必要な問題	筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することに課題がある。	
理科	全体的な傾向や特徴など	・全ての領域で全国平均を上回っているが、記述式の問題で無解答率が高いなど、数学的に説明することに課題がある。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	「粒子」を柱とする領域及び「生命」を柱とする領域における正答率が高く学主内容の定着が伺える。	
	努力が必要な問題	「エネルギー」を柱とする領域(おもりに働く力とつり合う力の矢印を選択し、その力について説明する問題等)の正答率が他の領域に比べ低かった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・「人の役に立つ人間になりたい」「自分にはよいところがあると思う」「将来の夢や目標をもっている」と答えた生徒の割合が高く、それぞれの夢をよりよい形で実現させるために具体的な目標設定を行い、行動に結びつけることができるようなキャリア教育の推進が必要である。 ・「自分で計画を立てて勉強をしている」と思っている生徒の割合は、全国平均より高いが、教員からの具体的な指導や生徒相互の評価、情報交換を有効に活用するなど、より効果的な学習習慣の定着を図る必要がある。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

日々の授業で、生徒が主体となって、「めあて」をもち、学習の「まとめ」に到達するように、学習の「ねらい」を明確にする。授業の終わりに、学習内容を振り返る活動を設定し、学習内容の確実な定着を図ったり、次の学習の見通しを持ったりすることができるようにする。タブレット端末を始めとしたICT機器の活用を幅を広げ、学習効果がより高まるようにする。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・家庭学習の時間を確保するために、課題(宿題)の内容や量について各教科で共通理解を図るとともに、生活ノートを活用した家庭学習の方法について、担任が点検・指導を行う。全国学力・学習状況調査の結果、明らかになった課題や取組等を保護者へ周知し、学校と家庭・小中学校が連携・協力して学力向上と進路の実現に向けて取り組めるようにする。